

1 題材名 せいかつの中にある音を楽しもう

2 題材設定の背景

題材観

本題材は、子どもが生活の中で何気なく耳にしている「音」を取り上げる。身の回りにはたくさんの音があり、ここでは学校や家の周りなど児童の生活圏内で聞こえる様々な音に焦点を当て、見つけた音を声で表現していく。そして友だちと協働し、声の出し方を工夫しながらつなげたり重ねたりすることで音楽をつくっていく。身の回りで聞こえる音を声で表現することを楽しみながら、生活の中にある音に興味・関心を高め、音によって身の回りの様子を再発見し、音環境を見つめ直すことができるであろう。また、声を使って身の回りの音を表現し、音楽をつくることで、さまざまな声の音色に触れ、今後の歌唱での表現など声の音色を試す学習につなげていくことのできる題材である。

児童観

本学級の子どもは、これまでに前年度の音楽科の授業や自己表現開発の活動の中で“意識して音を聴く”経験をし、静かに耳を澄ませることで、自分の身の回りは、様々な音で溢れているということに気付いている。本題材では、身の回りにある音を見つけて声に出す活動に加え、友だちと協働して音楽づくりを行うことで、工夫して表現しようとした音楽をつくる技能を身に付けられると共に、面白さや美しさを感じられるようにしたい。

集団観

指導観

児童観・集団観を踏まえ、2つのことを大切にする。1つ目は、自分とは異なる意見・表現であっても、しっかり聴いて語り合い、受け入れながら自分の考えを広めていけるようにすることである。そのため、「こだわり（あなたらしさ）はどこか。」「なぜそう表現したのか。」などと問いかけ、子どもが自分の思いを言葉や身体表現で伝え、認め合おうとする姿に寄り添いながら、自由に音を音楽にする活動を楽しみ、意欲的に取り組めるようサポートする。2つ目は、自分のつくった音楽と向き合う時間を確保することである。振り返りの場を設定し、友だちの表現から得た新たな気づきを自分の音楽づくりに取り入れて再考することで、友だちの考えを受け入れながら自分の表現に自信をもって活動できるようにしたい。

3 題材の目標及び計画（全6時間）

■題材の目標

身の回りの音に気付いたり探したりしながら、自分のお気に入りの音を見つけ、友だちと協働しながらその音をつなげたり重ねたりする活動を通して、音を音楽にする活動を楽しみ、思いをもって表現することができるようにする。

■題材の計画

第1次 生活の中にある音を見つけよう・・・・・・・・・・2時間

第2次 見つけた音を声で表し、音楽をつくろう・・・・・・・・3時間（本時3/3時間目）

第3次 みんなで作った音楽を聴き合おう・・・・・・・・・・1時間

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・声や身の回りの様々な音の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付いている。 ・設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付けている。	・音楽を形作っている要素（音色、強弱）を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように音を音楽にしていくかということについて思いをもっている。	・音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。

4 本時の学習（第2次 3／3）

■目標 身の回りにある音を声で表し、友だちと協働しながら音楽づくりをする活動を通して、声色、高さ、強さ、長さ、音の重なり等の働きの効果の面白さを感じたり、友だちの工夫から自分の表現を見つめ直し、愛着をもって表現したりしようとする。

■受容と共感を促す手立て

小集団で擬声語を使った音楽づくりをすることで、自分の思い(こだわり)や友だちの思いに触れることのできる機会を設け、考え方を広め表現できるようにする。また、振り返りの時間をもち交流することで、互いの表現を認めたり、自分の表現への思いを深めたりできるようにする。

■準備物 (T) ワークシート、板書用ワークシートを拡大したもの

■学習過程 ※ (全) (小) (個) : 学習形態 (全: 全体の場合 小: 小集団 個: 個人) ㊦: 評価の観点

学習事項	児童の活動	教師の働きかけとねらい	(集 団)												
1. 学習課題への接近	(1) 自分のお気に入りの音でつくった音楽のこだわりポイントを思い出す。 (例) キッチンの音で作った音楽 <table><tr><td>A</td><td>キュッキュツ</td></tr><tr><td>B</td><td>トントントン トントントン</td></tr><tr><td>C</td><td>シャーンシャーン シャーンシャーン シャーンシャーン</td></tr></table> ・料理をしていて出来上がる感じにしたよ。	A	キュッキュツ	B	トントントン トントントン	C	シャーンシャーン シャーンシャーン シャーンシャーン	(1) 子どもはどんな音と音を組み合わせたら面白い音楽になるだろうかと考えてグループづくりを行っている。前時までに音をつなげたり重ねたりした活動を振り返り、それぞれのこだわったポイントを思い出せるようにする。	(全) 既習の内容をもとに、活動の目的や内容を共有できるようにする。						
A	キュッキュツ														
B	トントントン トントントン														
C	シャーンシャーン シャーンシャーン シャーンシャーン														
2. 学習課題の設定	(2) 学習課題を設定する。 <table><tr><td>もっともっとくふうして声の合奏をしよう。</td></tr></table>	もっともっとくふうして声の合奏をしよう。	(2) 子どもの言葉をつないで学習課題とすることで、主体的に取り組むことができるようにする。												
もっともっとくふうして声の合奏をしよう。															
3. 学習課題の追究 (個・小集団による考察)	(3) グループでつくった音楽を確認する。 (例) 新幹線が発する音で作った音楽 <table><tr><td>A</td><td>ブルルルル</td></tr><tr><td>B</td><td>プシュー プシュー</td></tr><tr><td>C</td><td>ゴーゴーゴー</td></tr></table> ・最初に二人で一緒に歌おう。 ・2回繰り返して言おう。	A	ブルルルル	B	プシュー プシュー	C	ゴーゴーゴー	(3) 音を擬態語で表している子どもには、実際に自分で聴くことのできる「音」にできるよう声をかけ、自分で聴いた音に立ち返られるようにする。 ・子どもの自由な表現を受け止め広めることで、こだわりをもって表現したいという意欲を高められるようにする。	(個・小) 友達と一緒に発声するなどして、恥ずかしさのある子どもも安心して取り組めるようにする。						
A	ブルルルル														
B	プシュー プシュー														
C	ゴーゴーゴー														
(全体の場での考えの交流)	(4) よさや面白さを交流する。 ・キッキンググループは、どんどん料理ができていく感じを音楽にしました。 ・トントントンを少し弱く言っていて、やさしい感じが伝わってきました。 ・高い声でキュッキュツと言っていて面白い。	(4) 声色、高さ、強さ、長さ、音の重なりなどを意識しながら表現している子どもに、「なぜそう表現したのか。」と問うことで、働きによる効果を感じられるようにする。 ・あたたかい反応で友だちの表現を受け入れている子どもの姿を広めることで、認め合いながら活動できる授業集団を育てるようにする。	(全) 時間を十分に確保し、互いの表現の良さを見つけ交流できるようにする。												
(個・小集団の考えの充実)	(5) もう一度、よりよくなるよう音楽づくりをする。 例) キッチンの音で作った音楽 <table><tr><td>A</td><td>キュッキュツ↑</td></tr><tr><td>B</td><td>トントントン トントントン</td></tr><tr><td>C</td><td>シャーンシャーン シャーンシャーン シャーンシャーン</td></tr></table> ・水の音はだんだん小さくしよう。 例) 新幹線が発する音で作った音楽 <table><tr><td>A</td><td>ブルルルル (高く)</td></tr><tr><td>B</td><td>プシュー プシュー プルルルル (高く)</td></tr><tr><td>C</td><td>ゴー㊦ ゴー㊦ ゴー㊦</td></tr></table> ・ブルルルを二人ですずらして言って目立つようにしたよ。	A	キュッキュツ↑	B	トントントン トントントン	C	シャーンシャーン シャーンシャーン シャーンシャーン	A	ブルルルル (高く)	B	プシュー プシュー プルルルル (高く)	C	ゴー㊦ ゴー㊦ ゴー㊦	(5) 友だちの表現から得た新たな気づきを自分の音楽づくりに取り入れて再考し、こだわった点を言葉で伝え合うことで、それぞれの音楽づくりの面白さに気付けるようにする。 ・ワークシートには文字だけでなく丸や矢印などを書き込んでよいことを伝え、友だちと共に考えた過程を残し表現に生かせるようにする。 ㊦ 声色・高さ・強さ・長さ等の働きの効果を感じながら、思いをもって表現している。 (ワークシート・表現)	(全) → (個・小) 全体での気づきを受け、新たな視点で自分の表現を再度見つめられるようにする。
A	キュッキュツ↑														
B	トントントン トントントン														
C	シャーンシャーン シャーンシャーン シャーンシャーン														
A	ブルルルル (高く)														
B	プシュー プシュー プルルルル (高く)														
C	ゴー㊦ ゴー㊦ ゴー㊦														
4. 本時のまとめ (次時への発展)	(6) 学習の振り返りをする。 ・楽しい気持ちを声でできてよかった。 ・〇〇さんの発表を聴いて、高い音は明るくかわいい感じを表現できると分かった。 ・〇グループのだんだん小さくするやり方を、自分のグループにも入れて発表してみたい。	(6) うまくいったこと、友だちの表現から気付いたこと・よかったところ、次回挑戦してみたいことの視点で振り返りを行うことで、自分の学びや友だちと学ぶ良さを認識できるようにする。	(全) → (個) 子どもの願いをもとに次時の内容を決めていき、意欲を高められるようにする。												